慶應義塾大学経済学部研究プロジェクト

最終成果論文（2015 年度）

「帰国子女」の自己認識

―複数の文化・言語が彼らに与える影響

経済学部 3 年

後藤怜奈

境一三

目 次

1. 序論 1

2. 本論 3

2.1. 先行研究 3

2.1.1. アイデンティティ１型 4

2.1.2. アイデンティティ３型 4

2.1.3. アイデンティティ４型 6

2.2. 本研究の立ち位置 7

2.3. 「帰国子女」の定義 8

2.4. 研究結果と調査の概要 8

2.5. 研究結果 10

2.5.1. 「帰国子女」の自己認識 10

2.5.1.1. 「帰国子女」の自己認識① 10

2.5.1.2. 「帰国子女」の自己認識② 11

2.5.1.3. 「帰国子女」の帰属意識 12

2.5.2. 「帰国子女」の自己認識とその影響因子 14

3. まとめ 20

3.1. 結論 20

3.2. 今後の課題 20

4. 参考文献一覧 22

5. 資料 24

1. 序論

1987 年 10 月 24 日。NHK で「絆」というドラマが放映された。[1]ドラマの大まかな内容は以下のとおりである。親の仕事の都合により、アメリカで暮らしていた少年が、高校受験のために帰国してくる。しかし、特殊なバックグラウンド故に、周囲にうまく馴染めず、いじめを受ける。いじめはエスカレートしていき、暴力行為を受けるまでにもなる。少年は最後、日本に見切りをつけ、アメリカへと帰っていく。

「絆」が放映されて年近く経つ現在。当時は奇異な存在として目を向けられた「帰国子女」も、今やそれほど珍しいものではない。しかし、だからと言って「帰国子女」への理解が、ドラマ放映当時と比べて格段に深まったとかと言われれば、同意しかねる。確かに、1980 年代以降「帰国子女」研究は活発になり、研究の分野において、「帰国子女」や彼らをとりまく環境に対する理解は深まったかもしれない。けれども、重要なのはそこではない。30 年前も、現在も変わらず、「帰国子女」でない人にとって、「帰国子女」の問題は自分たちには関係の薄いことなのである。身近なこととして捉えていないのだ。

しかし、現実はどうだろうか。今や日常生活で外国のものに触れない日はないといっていいほど、我々の生活は外国と密接に結びついている。朝、使う目覚ましは中国製、朝食のバナナはフィリピン産、着る洋服はインドネシア産――そんな毎日が当たり前になっている。

モノの移動があれば、当然ヒトの移動もある。平成 25 年・26 年と、二年連続で海外に展開をしている日系企業の数は過去最多を更新した。[2]今や海外で働くことは、一部の職業の人に限ったことではなく、誰にでもあり得ることなのである。「帰国子女」の子供を持つこともまた、誰にでもあり得ることなのだ。

それなのにも関わらず、ひとは「帰国子女」に無関心すぎではないだろうか。我が子が「帰国子女」になる可能性もあるのに、「帰国子女」の問題をどこか他人事だと考えてはいないだろうか。自分には関係がないことだと考えるから、「帰国子女」の表面にしか目が向かない。複数の言語が話せる。複数の文化を知っている。それらは確かに「帰国子女」の一面だ。けれど、それらは一面に過ぎない。「帰国子女」は、人生における大事な成長過程の一部分を、異なる文化圏で過ごした人である。その期間がどれだけのものにせよ、それが個人に与える影響は計り知れない。「帰国子女」以外の人からみたとき、たとえ異国

---

[1] 『たったひとつの青い空　海外帰国子女は現代の棄て児か』　（大沢　1986）を原作とするスペシャルドラマ。第 3 回芸術作品賞、芸術選奨文部大臣賞を受賞し、大きな反響を呼んだ。

[2] 海外に進出している日系企業（拠点数）は平成 25 年で 6 万 3,777 拠点、平成 26 年で 6 万 8573 拠点。

でいくらかの時間を過ごしたとしても、「帰国子女」は日本人であることに変わりないかもしれないが、彼ら自身がそう思っているとは限らない。もしかすると、彼らは自分の「帰国」する国が日本ではなく、いくらかの時間を過ごした国こそが「帰国」する国だと考えているかもしれない。「帰国子女」にはこのように、アイデンティティの複雑性を持つ、という一面もあるのだ。今の日本には、そういった「帰国子女」の表に出てこない面に向ける関心・理解が欠如しているのではないだろうか。

本研究は、執筆者本人が海外で生まれ、幼少期の一定期間を外国で過ごし、「帰国子女」というくくりに含まれてきたことを背景とした、「帰国子女」のアイデンティティへの興味、及びそれらへの理解が深まることを願う心を発端に取り組まれた。

本論文では、「「帰国子女」の自己認識とそれに影響を与える要因は何か」という問いを掲げ、「帰国子女」が自分をどのように認識しているのか（=identify）、そしてその認識方にはどのような要素が影響しているのか、といった点を示し、普段焦点があてられることの少ない、「帰国子女」のアイデンティティに対する理解を深めることを目的としている。

2 章 1 節では、過去の「帰国子女」研究を取り上げ、これまで「帰国子女」のアイデンティティがどう論じられてきたか考察する。2 章 2 節では過去の研究に対し、本研究がどのような立ち位置をとるかを明確にし、3 節では本論文で使う「帰国子女」を定義する。4 節以降は、本研究で実際に用いた調査方法の紹介及び結果を記載し、考察を行う。

2. 本論

2.1. 先行研究

「帰国子女」に関する研究は 1960 年代をはじめに現れはじめたが、当初は教育の現場において、海外から帰国した海外子女をどのように日本社会に適応されるべきか、というのが論点であった。「帰国子女」のアイデンティティが取り上げられるようになったのは 1980 年代であり、1980 年代から 2010 年代まで、さまざまな説が提唱されてきた。

ここでは、「帰国子女」のアイデンティティの在り方として提唱されてきた説を、それぞれが前提とする考えに基づき、下の表 1 のように、4 つに分類する。

まず用語の定義づけをする。

- 1 型は、アイデンティティは「文化・言語などに基づき築かれる」ものと考え、本質的、固定的なものであるため、「一度変化が生じたのち、変化前の状態には戻らない」とする。
- 2 型は、アイデンティティは「文化・言語などに基づき築かれる」ものと考えるが、アイデンティティは流動的なものであり、置かれた状況に応じて、とり得る範囲内で自由に位置づけをする。
- 3 型は、アイデンティティは「他者との関係に基づき築かれる」ものと考え、本質的、固定的なものであるため、「一度変化が生じたのち、変化前の状態には戻らない」とする。
- 4 型は、アイデンティティは「他者との関係に基づき築かれる」ものと考えるが、アイデンティティは流動的なものであるため、置かれた状況に応じて、とり得る範囲内で自由に位置づけをする。

	文化・言語などに基づくもの	他者との関係に基づくもの
アイデンティティ固定型	1 型	3 型
アイデンティティ流動型	2 型（★）[3]	4 型

表 1

[3] 先行研究において、アイデンティティ 2 型に当てはまるものがないため、ここでは（★）を添えた。

2.1.1. アイデンティティ 1 型

まず、アイデンティティは「文化・言語などに基づき築かれる」ものと考え、本質的、固定的なものであるため、「一度変化が生じたのち、変化前の状態には戻らない」という前提に基づいた説を取り上げる。

河原（2005）は、複数の文化・言語に基づき、複数のアイデンティティが築き上げられ、それぞれは「分裂」状態を起こすとした。しかし、それらは後に「統合」され、最終的には自らの触れてきた言語すべてが、主体のアイデンティティを形成するとした。

> アイデンティティは「分裂」したが、やがては「統合」して「多元的アイデンティティ」になっていく可能性がある。（河原 2005 p177）

> 母語だけが自己の言語アイデンティティというよりも、自分の言語レパートリにあるすべての言語がアイデンティティの源になっているようである。（河原 2005 p198）

これに対し、ポロックは「帰国子女」のアイデンティティを論じるにあたり、新たな視点を提示している。彼の説では、アイデンティティは確かに「文化に基づき形成される」ものであり、「固定的」なものではあるが、前提とされる「文化」が国家に特有なものではなく、複数の文化の狭間に存在する「第三の文化」という新たな文化である。

> TCK はあらゆる文化と関係を結ぶが、どの文化も完全に自分のものではない。TCK の人生経験は彼らがかかわったそれぞれの文化から取り入れた要素で成り立っているが、彼らが帰属意識を覚えるのは同じような体験を持つ人々とのかかわりにおいてである。（ボロック 2010 p34）

2.1.2. アイデンティティ 3 型

次に、アイデンティティは「他者との関係に基づき築かれる」ものと考え、本質的、固定的なものであるため、「一度変化が生じたのち、変化前の状態には戻らない」とする説を取り上げる。

南（2000）は、

> ある集団への帰属意識を持つためには、そこで居心地がよいと感じる（feel comfortable）ことが

必要であり、そのためのスキルを身に着けている必要があるということだ。そして、この集団への帰属感こそが、社会文化的アイデンティティの構成要因なのである。（南　2000 p214）

（略）アイデンティティは場面との適合感や機能感、「居心地が良い」という感覚によって樹立されている（略）（南 2000 p258）

と述べ、アイデンティティ構築における言語の重要性を指摘しながらも、あくまでそれがアイデンティティの構成要因である「帰属感」、ひいてはその根底にある「居心地の良いという感覚」や「機能感」を築き上げる役割としてのものであるとした。

また、英語を使用する現地校ではよい成績を収めているのに、日本語を使用する補習校では成績が悪かった真紀子の例を取り上げ、「自分が効果的に機能しているという感覚」が保持できると感じる際、アイデンティティはうまく「再生産」される一方で、その感覚が保持できていないと感じるアイデンティティは「再生産」がままならず、「浸食」されていくとした。

（略）いずれにしても、機能的成員としてふるまうことができる場面を、真紀子が好んだと言えるだろう。（中略）「アメリカ人」アイデンティティはうまく不断に再生産される一方、「日本人」アイデンティティは再生産がままならず、浸食されてしまっているのである。（南　2000 p238）

そして、この「浸食」こそが「通文化的人間」の形成につながっていくといい、「帰国子女」が最終的には「通文化的人間」となっていくと論じた。

（略）通文化的人間形成とアイデンティティの浸食は、結び付いているのである。（南 2000 p261）

2.1.3. アイデンティティ 4 型

最後に、4 型は、アイデンティティは「他者との関係に基づき築かれる」ものと考えるが、アイデンティティは流動的なものであるため、置かれた状況に応じて、とり得る範囲内で自由に位置づけをするとい

う説を取り上げる。

末田(2012)は、

> 彼らはあるときは帰国子女ですが、あるときは帰国子女ではありません。（末田　2012 p115）

と述べ、「帰国子女」は自らの「フェイス[4]」が脅かされた時、その「フェイス」との関連の強いアイデンティティを強化し、アイデンティティの調節が行われるとした。

これに対し、渋谷(2001)は、

> 折しも、国民とは想像の共同体であり（アンダーソン、1991/1997）、人種や民族、性別といった線引きが特定の歴史の中で多分に恣意的になされてきたことが明らかにされてきている（Hall,1997a : Nixson, 1997 など）。（中略）こうしたパラダイムの転換を意識する時、従来のように、異なる文化を措定し、その間を往還するものとして「帰国子女」を見ることはできない。（渋谷 2001 p2,3）

と述べ、アイデンティティが文化・言語に固定的なものであることに疑問を呈し、Hall(1992)の提唱する「表象の中で構築される暫定的な位置取り」としてみなすアイデンティティ論に基づき、「帰国子女」は「帰国子女」以外の者との関係で自らのアイデンティティを位置付けるとした。

> （略）差異は「帰国子女」や「帰国生」に本質的に付随するものとしてではなく、さまざまな言説空間や日常実践の中、特定の基準のもとで比較され意味づけられることによって生起するもの（中略）境界線のどちらに誰を配置するのか、自らをどちらに位置付けるのかをめぐって、せめぎ合いが起きる。（渋谷 2001 p3）

[4] 社会学者ゴフマンによって提唱され、「他者に見せようとする社会的に価値のある自己の姿」と定義される概念。

2.2. 本研究の立ち位置

これまで、先行研究のとる 3 つの異なる立場を紹介してきたが、ここで本研究がどこに位置するか明記する。

	文化・言語などに基づくもの	他者との関係に基づくもの
アイデンティティ固定型	1 型	3 型
アイデンティティ流動型	2 型（★）	4 型

表 1 （再掲）

本研究は 2.1.1 で紹介した河原・ポロックなどが共有している前提である、アイデンティティは「文化・言語などに基づき築かれる」ものである、という前提を継承する。故に複数の文化・言語に触れたことにより、「帰国子女」は複数のアイデンティティを獲得するものとする。

しかし、アイデンティティの在り方としては、2.1.3 で紹介したような、アイデンティティは置かれた環境に応じて変化する「流動的」なものである、という考えを支持する。

つまり、筆者は、「帰国子女」はそれぞれ、触れてきた文化[5]・言語に影響され、複数のアイデンティティを築き上げ、その多数あるアイデンティティの中を、他者との関係や自らの精神の成熟具合に応じて、絶えず位置づけているのだと考える。表 1 の中で言うなれば、アイデンティティ 2 型が筆者の考えと一致している。

本研究では、そのような認識の下、α 時点における「帰国子女」の自己認識がどのようなものであるかを計測し、その自己認識にどういった要素が影響している可能性があるかを考察する。このとき、本研究で計測されているものが、あくまで、とある α 時点におけるものであって、その後回答者の自己認識が変わった可能性があることは指摘したい。

また、本研究は、従来の研究と異なり、「帰国子女」の自己認識を論じるにあたり、「帰国子女」の他者との交流を考察し、そこから第三者の解釈として、彼らの自己認識がどうであるか論じるのではなく、「帰国子女」自身が自らをどのように認識していると主張しているか、という点に着目する。

この意味では、本研究は「帰国子女」の主観に基づいたものといえるが、本研究は「帰国子女」が身近

[5] この「触れてきた文化」には、複数の文化の狭間にある「第三の文化」も含まれる。

なものとなったときに、彼らに理解を示せるように、多くの人に「帰国子女」のアイデンティティの複雑性を知らせることを目的としているため、第三者の解釈としての「帰国子女」の自己認識ではなく、彼ら自身の主張する意見にこだわって、論を進める。

2.3.「帰国子女」の定義

本節では、本論文で取り扱う「帰国子女」を定義する。広辞苑第五版によると、きこく-しじょ【帰国子女】は、「親の勤務の関係などから長年海外で生活して帰国した子供」とされている。先行研究においては、文部科学省が『学校基本調査』において規定している「海外勤務経験者帰国児童生徒」[6]を「帰国子女」とするものが多い。

本研究では、文部省の規定よりは少々範囲を広げ、幼少期[7]に複数国に滞在した経験があり、複数文化・言語に触れたことがあると主張する人を対象とする。本論で「帰国子女」をカッコつきで示すのは、「帰国子女」という単語自体の持つ性差別的ニュアンスに批判的であることを示すため、及び、海外で生まれ、初めて日本にやってきた子供や、日本を「帰国」する国として捉えていない子供の存在を配慮し、この呼称を用いることにある種の抵抗感があることを示すためである。

2.4. 研究手法と調査の概要

「帰国子女」のアイデンティティや自己認識といったことを取り上げる際、過去の研究ではインタビューなどの質的調査がよく用いられてきた。しかし、本研究では、選択式の質問紙を用いた量的調査を行った。この手法を用いた理由としては 3 つある。

1 つは、本研究では、「帰国子女」が一般にどのような自己認識を持つ傾向があるのかを示したかったため、より多くの「帰国子女」を対象にすることができる量的調査の方が適していると考えた。

もう 1 つは、数量的な値で示せるデータが欲しかったため。インタビューなどを通じ、「帰国子女」の「声」をきくことも大切だとは思うが、それでは感情的な部分があまりに大きく影響してしまうのではな

[6] 勤務や研究・研修を目的に海外に在留していた者や現在なお在留している者の児童生徒で、海外に 1 年以上滞在し、帰国後 3 年以内の子供を指す。
[7] 生まれた時も含め、0 歳以上 18 歳未満の期間を幼少期とする。

いかと考えた。アイデンティティというものは感情抜きにして語れるものではないが、なるべく多くの人に納得のいく形で「帰国子女」のアイデンティティの問題を理解してもらうために、可能な限り感情は省き、客観的に数値を用いて証明できるようにするためには、量的調査が適していると考えた。

最後に、他分野での先行研究との比較が可能になると考えたため。本研究で用いた質問紙は、日系アメリカ人のアイデンティティの研究によく用いられている Suinn-Lew Questionnaire をもとに作成したものである。本論文では、日系アメリカ人と「帰国子女」の自己認識の違いについては触れないが、同様の質問紙を用いれば今後の発展も見込めると考えた。

質問紙を用いた調査は、2015 年 7 月 13 日から同年 8 月 12 日までの 1 か月間行った。対象年齢は 18 歳から 22 歳の男女で、インターネットを媒介して実施された。回答数は 75、うち有効回答数が 69 であった。[8]

質問項目は大まかに分けて 5 つの項目にわけることができ、それぞれ

1. 言語能力を問う問題
2. 言語や環境の嗜好を問う問題
3. バックグラウンドを問う問題
4. 自己をどのように評価するかを問う問題
5. 自己をどのように認識するかを問う問題

とする。この際、4 と 5 の「評価」と「認識」の違いであるが、それぞれの違いを下の表 2 で表記する。

	「評価」	「認識」
内容	個人の**性格的**なことを問う	個人のアイデンティティをどう見るか（＝identify する方法）を問うもの
実際の質問	Q17. How would you rate yourself?	Q5. How do you identify yourself? Q23. （略）Which ONE of the following best describes how you view yourself?

表 2

質問事項は全部で 25 項目[9]あり、全文英文で、Google フォームを用いてインターネット上で実施され

[8] 有効回答数の男女比は 20:49 であった。
[9] 追加協力の意思の有無を確認する 2 問は含めない。

た。

本論文では、この質問紙を用いて得たデータを集計した結果をもとに「帰国子女」の自己認識がどうあるかを示し、その後、相関分析を用いて、相関係数から「帰国子女」の自己認識にどのような要素が影響している可能性があるか推測した。なお、相関分析では因果関係を示すことはできず、ただ、それぞれの要素を含む質問の回答傾向に相関がみられることのみが証明されることには留意しておきたい。

2.5. 研究結果

本節では、まず質問紙における「帰国子女」の自己認識（=identify）を問う問題に対し、「帰国子女」がどのように答えたかを述べたのち、そのほかの項目との相関分析を通じて得られた結果を述べる。

2.5.1. 「帰国子女」の自己認識

この節では、「帰国子女」の自己認識に関わる 3 つの項目に対し、どのような回答が得られたか、記載する。3 つの項目はそれぞれ

i. How do you identify yourself?

ii. There are many different ways in which people think of themselves. Which ONE of the following most closely describes how you view yourself?

iii. Which country do you consider as home?

である。

2.5.1.1. 「帰国子女」の自己認識①

以下は、”How do you identify yourself?”という質問に対し、

1. Japanese
2. Japanese-American (Chinese, Korean, etc.) 【Japanese < American】
3. American (Chinese, Korean, etc.) – Japanese 【Japanese > American】
4. American, Chinese, Korean, etc.

の中から、「帰国子女」がどれを選択したか表す表である。

自己認識①

		度数	パーセント
有効	1	53	77.9
	2	9	13.2
	3	6	8.8
	合計	68	100.0

表 2

Japanese と答えた者が 78%近くいたが、Japanese/American のどちらが優勢であったにせよ、両方であると答えたものは合計で 22%。僅差ではあるが、どちらかといえば日本以外の国の方が優勢と答えた人数の方が、日本優勢と答えた人数より多いということには注意したい。

この結果より、確かに多くの「帰国子女」は自分のことを「日本人」であると認識してはいるが、過去の多くの研究において自明のこととされてきた「帰国子女」が「日本人」であるという前提でさえ、すべての「帰国子女」において適用されるわけではないことがわかる。

2.5.1.2. 「帰国子女」の自己認識②

次に、「帰国子女」の自己認識を問うにあたり、もう少し細かく問うた、”There are many different ways in which people think of themselves. Which ONE of the following most closely describes how you view yourself?” という質問に対する答えの分布を述べる。それぞれ、選択肢は、

1. I consider myself as Japanese, even though I have non-Japanese backgrounds and characteristics
2. I consider myself basically Japanese, even though I have non-Japanese backgrounds and characteristics
3. I consider myself as both Japanese and American (Chinese, Korean, etc.) although deep down I always know I am Japanese
4. I consider myself as both Japanese and American (Chinese, Korean, etc.) although deep down I view myself as American (Chinese, Korean, etc.)
5. I consider myself as both Japanese and American (Chinese, Korean, etc.) and I view myself as a blend of both

である。

自己認識②

		度数	パーセント
有効	1	28	41.2
	2	21	30.9
	3	10	14.7
	4	2	2.9
	5	7	10.3
	合計	68	100.0

表 3

表 3 からもまた、「帰国子女」＝「日本人」という前提は不適切であることが読み取れる。

注意すべき点としては、上の表 2 で「日本人」と答えた 77%の帰国子女の中には、自らが「大体(=basically)」日本人であると感じている者や、どちらでもあるけれど「まずは日本人である(=deep down I always know I am Japanese)」と感じている者がいることである。表向きは「日本人」だと答えていたとしても、はっきりと自分を「日本人」であると断言しているのは全体の半分にも満たず、41%にとどまっていることからも、「帰国子女」の自己認識は非常に複雑なところにある可能性が高いと言える。

2.5.1.3.　「帰国子女」の帰属意識

ほかにも、自己認識（=identify する方法）を直接問う質問ではないが、「帰国子女」のアイデンティティを論じる際、注意を向けたい、「帰国子女」が帰属意識を感じる国はどこか、という問いに対する回答傾向も見ておきたい。

下の図は”Which country do you consider as home?”という問いに対しての答えを表したものである。選択肢はそれぞれ、

1. Japan
2. Both Japan and America (China, Korea, etc.)

3. Neither Japan nor America (China, Korea, etc.)
4. America (China, Korea, etc.)
5. None of above

であった。ここで 3 の選択肢と 5 の選択肢を置いた意図であるが、3 は日本や滞在した国のどちらにも帰属意識は持っていない人、もしくはどちらにも帰属意識はあるが”both”といえるほど強い帰属意識を持っていない人、及び、滞在経験のない他のどこかに帰属意識を持つ人を考慮して置いたものである。これに対し、5 はどこにも帰属意識を持っていない人のことを考慮しておいたものである。

帰属意識

		度数	パーセント
有効	1	45	66.2
	2	16	23.5
	3	3	4.4
	4	3	4.4
	5	1	1.5
	合計	68	100.0

表 4

70%近い人数が日本と答えたものの、30%を上回る人数がそれ以外の答えを選んでいることは注目すべき点だといえる。また全体の 10%と、少ない比率ではあるが、帰属意識を感じる国に日本が含まれていない者がいることも強調しておきたい。

さらに、表 2・表 3 と比較した際、”How do you identify yourself?”で、「日本人」と答えた人が 77%いたのに対し、帰属意識を感じる国で純粋に「日本」と答えているのが 66%、自らを「日本人である」と断言したのが 44%と、乖離していることから、自分は「日本人」であると認識しているのに、「日本」以外の国に対して、もしくは「日本」以外の国に対しても帰属意識を覚えている人がいることがわかる。

以上のことより、「帰国子女」の自己認識（=identify する方法）に関して、「帰国子女」は必ずしも自分を完全に「日本人」として認識しているわけではないことが確認できた。つまり、「帰国子女」は複数の文化を渡り歩き、複数の言語を身に着けることを通じて、自らを 100%「日本人」なのではなく、ほかの要素を持った人なのだと考えている可能性が高いといえる。

次項では、どのような要素が彼らの自己認識に影響を与えている可能性があるか、相関係数を用いて、考察を行う。

2.5.2. 「帰国子女」の自己認識とその影響因子

「帰国子女」の自己認識にはどういった要素が影響を与えているのだろうか。なぜ、「帰国子女」の中には、自分を「日本人」だと断言する人もいれば、中間であるだとか、日本人以外の何かであるという人がいるのだろうか。彼らの間にはどういった違いがあるのだろうか。

本項では「帰国子女」の自己認識にどういった要因が影響を与えているのか、相関分析を用いて解答傾向のパターンの相関を考察する。なお、相関の有無は、多くの先行研究の基準に従い、

i) $0 \leqq r < 0.2$ のとき、相関なし

ii) $0.2 \leqq r < 0.4$ のとき、あまり相関がない

iii) $0.4 \leqq r < 0.7$ のとき、ある程度の相関がみられる

ⅳ) $0.7 \leqq r < 1$ のとき、強い相関がみられる

とする。

なお、測定に用いた項目は以下の項目である。

言語能力	自己認識①	言語の嗜好	生い立ち	0-6 歳時の交友関係[10]
読解能力	自己認識②	環境の嗜好	育った場所	6-18 歳時の交友関係
執筆能力	自己評価	食事の嗜好	海外で過ごした年数	現在の交友関係
海外の価値観への共感	帰属意識	居心地の良さを感じる環境		

[10] 「交友関係」とは、周囲にどれだけ日本人・日本人以外がいたかを指す。

表 5

ここで、「帰国子女」の自己認識を表す 3 つの項目、自己認識①・自己認識②・帰属意識のそれぞれに対し、どういったものが相関を示していたか、確認する。

下記の表 6 は、自己認識①、”How do you identify yourself?”という問いへの回答に 0.4 以上の相関を示した項目を並べたものである。図より、自己認識①には同じく自己認識を示す 2 つの項目のみに相関を示していることがわかる。

相関

		自己認識②	帰属意識
自己認識①	Pearson の相関係数	.520**	.432**
	有意確率（両側）	.000	.000
	度数	68	68

**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）である。

表 6

次に、自己認識②、（略）Which ONE of the following best describes how you view yourself?というものに対し、相関を示していたものを挙げる。

相関

		自己認識①	自己評価	帰属意識
自己認識②	Pearson の相関係数	.520**	.517**	.507**
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000
	度数	68	68	68

**. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) である。

表 7

この表から、自己認識②は、自己認識を示すほかの 2 つの項目の他に「自己評価」とも相関を持つことがわかる。同じ自己認識を問うものであるのに、自己認識①と自己認識②で相関するものに差が出ているのは、自己認識②の方が、細かく選択肢を設定していて、より回答者本人の意見が反映できたからではないかと推測する。

表 8 は、帰属意識、”Which country do you consider as home?”という質問への回答傾向がどういった要素と相関を持つか示している。

相関

		自己評価	自己認識②
帰属意識	Pearson の相関係数	.599**	.507**
	有意確率 (両側)	.000	.000
	度数	68	68

**. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) である。

表 8

表 7・表 8 より、「帰国子女」の自己認識には「自己評価」、個人がどれだけ自分を日本的・外国的な人物だと評価しているか、が関係している可能性があることが指摘できる。

では、その「自己評価」がどういった項目と相関を持つか、確認してみると、

相関

		使用できる言語	言語の嗜好	6-18 歳時の環境	育った場所	読解能力	執筆能力	海外の価値観への共感
自己評価	Pearson の相関係数	.469**	.512**	.523**	.539**	.557**	.529**	.424**
	有意確率（両側）	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	度数	68	68	68	68	68	68	68

**. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) である。

表 9

使用できる言語・言語の嗜好・6-18 歳時の環境・育った場所・言語能力・執筆能力[11]など、「言語の能力[12]・嗜好」及び「生い立ち」、「海外の価値観への共感」とある程度の相関があることがわかる。

ここで、注目したいのが、「生い立ち」というくくりに含まれる項目のうち、相関があるとみられるのは「6-18 歳時の環境」及び「育った場所[13]」であり、「0-6 歳時の環境」や「海外で過ごした年数」、「個人の出生[14]」は相関がみられない、ということである。

下記の表 10・表 11 は「0-6 歳時の環境」と「6-18 歳時の環境」が相関を示すものの一覧である。

---

[11] なお、これらの項目はそれぞれお互いに相関を示しており、ここに上がっていない項目とは相関していない。

[12] この際、「言語の能力」を示す項目として「使用できる言語」「読解能力」「執筆能力」の 3 つがあげられるが、「使用できる言語」は”What language can you speak?”と単純に使える言語を問うているのに対し、「読解能力」「執筆能力」は”Do you read/write better in Japanese better than another language?”など、個人が使える言語の中での優劣関係を問うているものである。

[13] ここでいう「育った場所」とは”Where were you raised?”という質問に対し、

1. In Japan only
2. Mostly in Japan, some in a country other than Japan
3. Equally in Japan and a country other than Japan
4. Mostly in a country other than Japan, some in Japan
5. In a country other than Japan only

という回答を示す。

[14] これは”Which generation are you?”という質問で家庭内に日本人以外の者がいるか、もしくは自分が外国で生まれたかどうか、確認した。

相関分析

		育った場所
0-6 歳時の交友関係	Pearson の相関係数	.562**
	有意確率 (両側)	.000
	度数	68

**. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)である。

表 10

相関分析

		育った場所	読解能力	執筆能力	自己評価
6-18 歳時の環境	Pearson の相関係数	.560**	.502**	.527**	.523**
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000	.000
	度数	68	68	68	68

**. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) である。

表 11

表より、「6-18 歳時の環境」は「言語能力」と「自己評価」にある程度の相関があるのに対し、「0-6 歳児の環境」は相関がみられないため、それほど影響がないと推測できる。これは、0-6 歳時よりも 6-18 歳に使用した言語の方が、能力として結び付きやすい、ということと、自らの人格を形成するにあたり重要だ、ということを示していると考えられる。[15]

以上のことより、「帰国子女」の自己認識（=identify する方法）には、「自己評価」と「帰属意識」が関係することが示された。中でも「自己評価」はその者自身が滞在国でどれだけその地の言語を獲得で

[15] これはエリク・H・エリクソンの「自我の発達理論」でも提唱されていることであり、エリクソンの説によると、児童期までの発達は「同一化の過程」であり、「自分とは何か」を問い、「自我」を確立するようになるのは青年期以降である。

きたか、及びその地の人との関係の中で自らの人格を形成してきたか、という点に何らかの関連があることがわかった。[16]

[16] ここで一部例外として、日本語以外の言語の能力はそれほど高くなく、自らをより日本的な人物だと評価する人の中で、「自己認識」や「帰属意識」に「日本」以外の国を挙げた人が少数いた。このような人は全員、「0-6 歳時における交友関係」が外国優位であり、「6-18 歳時における交友関係」が日本優位であった。このことより、アイデンティティが十分に確立されていないうちにある文化圏を離れると、その文化圏に対する執着のようなものが強くなるのではないかと推測される。

3. まとめ

3.1. 結論

本論文では、「帰国子女」の自己認識（=identify する方法）がどうであるか、そしてその自己認識を決定するのにどのような要因が関係するか、という問いを掲げた。

まず、「帰国子女」の自己認識（=identify する方法）であるが、彼らが全員、自分を「日本人」であると考えているわけではないことを明らかにすることができた。さらに、自らを「日本人」とする者の中にも、自分は完全に「日本人」であると断定する者は少なく、外国でいくらかの時間を過ごしたことにより、多くの「帰国子女」は自分に「日本人」以外の何らかの要素が入ったと認識していることがわかった。故に、従来は当たり前のこととされた「帰国子女」＝「日本人」という考え方は不適当であるといえる。

次に、「帰国子女」の自己認識を決定するのにどのような要因が関係するか、であるが、これに関しては、自らをどのような人物と評価する「自己評価」とどこに帰属意識を感じるかという「帰属意識」が関係すると考えられることがわかった。そしてこのうち、「自己評価」を形成するものとして、「言語能力」「6-18 歳時の交友関係」「育った場所」などが関係していると推測され、「帰国子女」が外国に滞在することにより「言語」を獲得できたか、及びその地の人との交流を通じ自らの「人格」に影響が与えられたか、によって「帰国子女」の「自己認識」は変化するのだと考えられる。

3.2. 今後の課題

本論文では、質問紙による量的調査を通じ、「帰国子女」の自己認識の実態がどのようなものであるか確認した。しかしながら、その自己認識がどのような要素に影響されているのか、他の質問項目との回答傾向との相関という形のみでしか導くことができず、因果関係を示すところにまでは至らなかった。

また、ある α 時点における「帰国子女」の自己認識を確かめることはできたが、それが後に変化するかどうかを示すことも、変化するのであればどのような要因によって変化するのかも確かめることができなかった。

最後に、本論で取り上げることはできなかったが、「帰国子女」に「幼少期に複数言語を学んだことはアイデンティティに複雑性をきたすか」という問いを掲げたところ、60%[17]の者が「そう思う」もしくは

[17] 有効回答数 69 のうち、「そう思う」と答えたのが 30、「とてもそう思う」と答えたのが 12 であった。

「とてもそう思う」と答えたことを述べたい。今後の研究で、上で述べたような点に光が当たり、「帰国子女」のアイデンティティの複雑性について、少しでも多くの人に理解が得られるようになることを期待する。

4. 参考文献一覧

Pollock, D.C., & Van Reken, R.E. (2001). Third culture kids: The experience of growing up among worlds. Yarmouth, Me.: Intercultural Press; London

Suinn, R.M., Ahuna, C., & Khoo, G. (1992). The Suinn-Lew Asian Self-Identity Acculturation Scale: Concurrent and factorial validation. *Educatinal and Psychological Measurement*, 52(4), p1041-1046

Watkins-Goffman, L. (2001). Lives in two languages: An exploration of identity and culture. Ann Arbor: University of Michigan Press

浅井亜紀子　(2006)　『異文化接触における文化的アイデンティティのゆらぎ』　京都：ミネルヴァ書房

エリクソン，E. エリク　西平直訳　(2011)　『アイデンティティとライフサイクル』　東京：誠信書房

大沢周子　(1986)　『たったひとつの青い空：海外帰国子女は現代の棄て児か』　東京：文芸春秋

小野原信善、大原始子　(2004)　『ことばとアイデンティティ：ことばの選択と使用を通して見る現代人の自分探し』　東京：三元社

川上郁雄　(2013)　『「移動する子ども」という記憶と力：ことばとアイデンティティ』　東京：くろしお出版

グッドマン，R. ロジャー　長島信弘　(1992)　『帰国子女：新しい特権層の出現』　東京：岩波書店

慶應義塾大学国際センター　(1988)　『帰国子女アンケート調査結果：昭和 61 年度慶應義塾学事振興資金による』　東京：慶應義塾大学

小塩真司　(2005)　『研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析』　東京：東京図書

小塩真司　(2011)　『SPSS と Amos による心理・調査データ解析：因子分析・共分散構造分析まで（第 2 版）　東京：東京図書

渋谷真樹　(2001)　『「帰国子女」の位置取りの政治：帰国子女教育学級の差異のエスノグラフィ』　東京：勁草書房

末田清子　(2012)　『多面的アイデンティティの調査とフェイス（面子）』　京都：ナカニシヤ出版

鑪幹八郎、山下格　(1999)　『アイデンティティ』　東京：日本評論社

橋本綾香　(2001)　『帰国子女自らを語る』　東京：アストラ

平井明代　(2012)　『教育・心理系研究のためのデータ分析入門：理論と実践から学ぶ spss 活用法』　東京：東京図書

細川英雄　(2011)　『言語教育とアイデンティティ：ことばの教育実践とその可能性』　横浜：春風社

ポロック，D. デビッド、リーケン，R.V. ルース＝ヴァン　嘉納もも訳　(2010)　『サードカルチャーキッズ：多文化の間で生きる子どもたち』　東京：スリーエーネットワーク

南保輔　(2000)　『海外帰国子女のアイデンティティ：生活経験と通文化的人間形成』　東京：東信堂

宮崎幸江、坂本光代　(2014)　『日本に住む多文化の子どもと教育：ことばと文化のはざまで生きる』東京：上智大学出版

若島孔文、都築誉史、松井博史　(2005)　『心理実験マニュアル：SPSS の使い方からレポートへの記述まで』　東京：北樹出版

5. 資料

・QUESTIONNAIRE BASED ON THE SUINN-LEW ASIAN SELF-IDENTITY ACCULTURATION SCALE

調査に用いた質問紙のスクリーンショット

QUESTIONNAIRE BASED ON THE SUINN-LEW ASIAN SELF-IDENTITY ACCULTURATION SCALE

INSTRUCTIONS:
The questions which follow are for the purpose of collecting information about your historical background as well as more recent behaviors which may be related to your cultural identity. Choose the one answer which best describes you.

*必須

1. Please select your gender *

- ◯ 1. Female
- ◯ 2. Male
- ◯ 3. Other

2. How old are you? *

- ◯ 1. ages 11 or younger
- ◯ 2. 12 to 15
- ◯ 3. 16 to 18
- ◯ 4. 19 to 22
- ◯ 5. ages 23 or older

3. What language can you speak? *

- ◯ 1. Japanese only
- ◯ 2. Mostly Japanese, some English (or other language: ex. Chinese, Korean, etc.)
- ◯ 3. Japanese and English (or other language) about equally well (bilingual)
- ◯ 4. Mostly English (or other language), some Japanese
- ◯ 5. English (or other language) only

4. What language do you prefer? *

- ◯ 1. Japanese
- ◯ 2. Japanese > English (or other language: ex.Chinese, Korean, etc.)
- ◯ 3. Japanese = English (or other language)
- ◯ 4. English (or other language) > Japanese
- ◯ 5. English (or other language)

5. How do you identify yourself? *

- ◯ 1. Japanese
- ◯ 2. Japanese-American (Chinese, Korean, etc.)【Japanese < American】
- ◯ 3. American (Chinese, Korean, etc.) - Japanese【Japanese > American】
- ◯ 4. American, Chinese, Korean, etc.

6. What was the ethnic origin of the friends and peers you had, as a child up to age 6? *

- ◯ 1. Almost exclusively Japanese
- ◯ 2. Mostly Japanese
- ◯ 3. About equally Japanese and other nationality groups
- ◯ 4. Mostly other nationality groups (non-Japanese)
- ◯ 5. Almost exclusively other nationality groups (non-Japanese)

7. What was the ethnic origin of the friends and peers you had, as a child from 6 to 18? *

- ◯ 1. Almost exclusively Japanese
- ◯ 2. Mostly Japanese
- ◯ 3. About equally Japanese and other nationality groups
- ◯ 4. Mostly other nationality groups (non-Japanese)
- ◯ 5. Almost exclusively other nationality groups (non-Japanese)

8. Whom do you now associate with in the community? *

- ◯ 1. Almost exclusively Japanese
- ◯ 2. Mostly Japanese
- ◯ 3. About equally Japanese and other nationality groups
- ◯ 4. Mostly other nationality groups (non-Japanese)
- ◯ 5. Almost exclusively other nationality groups (non-Japanese)

9. If you could pick, whom would you prefer to associate with in the community? *

- ◯ 1. Almost exclusively Japanese
- ◯ 2. Mostly Japanese
- ◯ 3. About equally Japanese and other nationality groups
- ◯ 4. Mostly other nationality groups (non-Japanese)
- ◯ 5. Almost exclusively other nationality groups (non-Japanese)

10. What generation are you? *

◯ 1. 1st generation = I was born in a country other than Japan

◯ 2. 2nd generation = I was born in Japan, either parent was born in a country other than Japan

◯ 3. 3rd generation = I was born in Japan, both parents were born in Japan, and all grandparents were born in a country other than Japan

◯ 4. 4th generation = I was born in Japan, both parents were born in Japan, and one grandparent was born in Japan

◯ 5. 5th generation = I was born in Japan, both parents were born in Japan, and all grandparents were also born in Japan

◯ 6. Don't know what generation best fits since I lack some information

11. Where were you raised? *

◯ 1. In Japan only

◯ 2. Mostly in Japan, some in a country other than Japan

◯ 3. Equally in Japan and a country other than Japan

◯ 4. Mostly in a country other than Japan, some in Japan

◯ 5. In a country other than Japan only

12. How many years have you lived abroad? *

◯ 1. less than a year

◯ 2. 1～3 years

◯ 3. 3～5 years

◯ 4. 5～10 years

◯ 5. more than 10 years

13. What is your food preference at home? *

- ◯ 1. Exclusively Japanese food
- ◯ 2. Mostly Japanese food, some American (English, Chinese, Korean, etc.)
- ◯ 3. About equally Japanese and American (English, Chinese, Korean, etc.)
- ◯ 4. Mostly American (English, Chinese, Korean, etc.)
- ◯ 5. Exclusively American (English, Chinese, Korean, etc.)

14. What is your food preference in restaurants? *

- ◯ 1. Exclusively Japanese food
- ◯ 2. Mostly Japanese food, some American (English, Chinese, Korean, etc.)
- ◯ 3. About equally Japanese and American (English, Chinese, Korean, etc.)
- ◯ 4. Mostly American (English, Chinese, Korean, etc.)
- ◯ 5. Exclusively American (English, Chinese, Korean, etc.)

15. Do you *

- ◯ 1. Read only in Japanese?
- ◯ 2. Read in Japanese better than in a different language?
- ◯ 3. Read in both Japanese and in a different language equally well?
- ◯ 4. Read in a different language better than in Japanese?
- ◯ 5. Read only in a different language?

16. Do you *

- ◯ 1. Write only in Japanese?
- ◯ 2. Write in Japanese better than in a different language?
- ◯ 3. Write in both Japanese and a different language equally well?
- ◯ 4. Write in a different language better than in Japanese?
- ◯ 5. Write only in a different language?

17. How would you rate yourself? *

- ◯ 1. Very Japanese
- ◯ 2. Mostly Japanese
- ◯ 3. Bicultural
- ◯ 4. Mostly American, Mostly English, Mostly Chinese, Mostly Korean, etc.
- ◯ 5. Very American, Very English, Very Chinese, Very Korean, etc.

18. Do you participate in American (Chinese, Korean, etc.) occasions, holidays, traditions, etc? *

- ◯ 1. Nearly all
- ◯ 2. Most of them
- ◯ 3. Some of them
- ◯ 4. A few of them
- ◯ 5. None at all

19. Rate yourself on how much you believe in Japanese values (e.g. about marriage, families, education, work): *

	1	2	3	4	5	
(do not believe)	◯	◯	◯	◯	◯	(strongly believe)

20. Rate yourself on how much you believe in American (Chinese, Korean, etc.) values *

	1	2	3	4	5	
(do not believe)	○	○	○	○	○	(strongly believe)

21. Rate yourself on how well you fit when with Japanese *

	1	2	3	4	5	
(do not fit)	○	○	○	○	○	(fit very well)

22. Rate yourself on how well you fit when with Americans, Chinese, Koreans, etc. *

	1	2	3	4	5	
(do not fit)	○	○	○	○	○	(fit very well)

23. There are many different ways in which people think of themselves. Which ONE of the following most closely describes how you view yourself? *

○ 1. I consider myself as Japanese, even though I have a non-Japanese background and characteristics.

○ 2. I consider myself basically as Japanese, even though I have a non-Japanese background and characteristics.

○ 3. I consider myself as both Japanese and American (Chinese, Korean, etc.) although deep down I always know I am Japanese

○ 4. I consider myself as both Japanese and American (Chinese, Korean, etc.) although deep down I view myself as an American (Chinese, Korean, etc.) first.

○ 5. I consider myself as both Japanese and American (Chinese, Korean, etc.) and I view myself as a blend of both

24. Which country do you consider as home? *

- ◯ 1. Japan
- ◯ Both Japan and America (China, Korea, etc.)
- ◯ 3. Neither Japan nor America (China, Korea, etc.)
- ◯ 4. America (China. Korean, etc.)
- ◯ 5. None of above

25. Do you believe that being brought up in multi-language environments could cause complexity in identity? *

	1	2	3	4	5	
(strongly disagree)	◯	◯	◯	◯	◯	(strongly agree)

26. Would you be interested in accepting an interview for further research on this topic: "The Effects of Multi-Language Environments on One's Identity"? *

- ☐ YES
- ☐ NO

⇒if you chose YES, please write your name and e-mail address below

送信

・全項目の相関係数

International Business Machines Corporation の統計解析ソフトフェア SPSS によるもの

相関

		使用できる言語	言語の嗜好	自己認識①	0-6歳時の交友関係	6-18歳時の交友関係	現在の交友関係	嗜好する環境	生い立ち	育った場所	海外で過ごした年数	家での食事嗜好
使用できる言語	Pearson の相関係数	1	.429**	.339**	.180	.481**	.222	-.029	-.137	.389**	.521**	.083
	有意確率 (両側)		.000	.005	.142	.000	.069	.815	.266	.001	.000	.500
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
言語の嗜好	Pearson の相関係数	.429**	1	.249*	.106	.467**	.261*	.327**	.096	.336**	.339**	.254*
	有意確率 (両側)	.000		.041	.390	.000	.032	.007	.437	.005	.005	.037
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
自己認識①	Pearson の相関係数	.339**	.249*	1	.218	.100	.166	.180	-.344**	.094	.170	.310*
	有意確率 (両側)	.005	.041		.074	.418	.175	.143	.004	.448	.166	.010
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
0-6歳時の交友関係	Pearson の相関係数	.180	.106	.218	1	.242*	.138	.023	-.279*	.562**	.610**	.113
	有意確率 (両側)	.142	.390	.074		.047	.260	.850	.021	.000	.000	.358
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
6-18歳時の交友関係	Pearson の相関係数	.481**	.467**	.100	.242*	1	.218	.037	.116	.560**	.449**	-.170
	有意確率 (両側)	.000	.000	.418	.047		.073	.764	.344	.000	.000	.166
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
現在の交友関係	Pearson の相関係数	.222	.261*	.166	.138	.218	1	.159	.039	.164	.092	.174
	有意確率 (両側)	.069	.032	.175	.260	.073		.195	.755	.181	.457	.156
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
嗜好する環境	Pearson の相関係数	-.029	.327**	.180	.023	.037	.159	1	.036	-.032	.007	.279*
	有意確率 (両側)	.815	.007	.143	.850	.764	.195		.772	.795	.954	.021
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
生い立ち	Pearson の相関係数	-.137	.096	-.344**	-.279*	.116	.039	.036	1	-.182	-.279*	-.081
	有意確率 (両側)	.266	.437	.004	.021	.344	.755	.772		.138	.021	.509
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
育った場所	Pearson の相関係数	.389**	.336**	.094	.562**	.560**	.164	-.032	-.182	1	.728**	.006
	有意確率 (両側)	.001	.005	.448	.000	.000	.181	.795	.138		.000	.963
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
海外で過ごした年数	Pearson の相関係数	.521**	.339**	.170	.610**	.449**	.092	.007	-.279*	.728**	1	.134
	有意確率 (両側)	.000	.005	.166	.000	.000	.457	.954	.021	.000		.274
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
家での食事嗜好	Pearson の相関係数	.083	.254*	.310*	.113	-.170	.174	.279*	-.081	.006	.134	1
	有意確率 (両側)	.500	.037	.010	.358	.166	.156	.021	.509	.963	.274	
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
外での食事嗜好	Pearson の相関係数	-.129	.121	-.016	.077	-.176	.100	.213	.162	-.121	-.104	.468**
	有意確率 (両側)	.293	.327	.899	.534	.152	.417	.081	.186	.326	.397	.000
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
読解能力	Pearson の相関係数	.498**	.586**	.165	.273*	.502**	.223	.035	.034	.505**	.453**	.106
	有意確率 (両側)	.000	.000	.178	.024	.000	.068	.777	.781	.000	.000	.390
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68

相関

		外での食事嗜好	読解能力	執筆能力	自己評価	海外文化への参加	日本の価値観への共感	海外の価値観への共感	日本での居心地	海外での居心地	自己認識②	帰属意識を感じる国
使用できる言語	Pearson の相関係数	-.129	.498**	.532**	.469**	-.425**	-.088	.111	-.029	.186	.336**	.220
	有意確率 (両側)	.293	.000	.000	.000	.000	.475	.367	.815	.128	.005	.071
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
言語の嗜好	Pearson の相関係数	.121	.586**	.595**	.512**	-.099	-.223	.329**	-.258*	.296*	.383**	.286*
	有意確率 (両側)	.327	.000	.000	.000	.422	.067	.006	.034	.014	.001	.018
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
自己認識①	Pearson の相関係数	-.016	.165	.154	.386**	-.213	-.121	.299*	-.014	.191	.520**	.432**
	有意確率 (両側)	.899	.178	.211	.001	.081	.325	.013	.907	.118	.000	.000
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
0-6歳時の交友関係	Pearson の相関係数	.077	.273*	.235	.301*	-.053	-.009	.208	-.036	.091	.175	.235
	有意確率 (両側)	.534	.024	.054	.013	.665	.939	.089	.772	.461	.153	.054
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
6-18歳時の交友関係	Pearson の相関係数	-.176	.502**	.527**	.523**	-.129	-.019	-.001	-.356**	.171	.279*	.289*
	有意確率 (両側)	.152	.000	.000	.000	.295	.878	.991	.003	.162	.021	.017
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
現在の交友関係	Pearson の相関係数	.100	.223	.284*	.282*	-.141	-.055	-.015	-.126	.182	.171	.196
	有意確率 (両側)	.417	.068	.019	.020	.251	.656	.902	.306	.137	.163	.109
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
嗜好する環境	Pearson の相関係数	.213	.035	.101	.183	-.077	-.269*	.362**	-.331**	.136	.237	.255*
	有意確率 (両側)	.081	.777	.414	.136	.531	.027	.002	.006	.269	.052	.036
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
生い立ち	Pearson の相関係数	.162	.034	.025	-.103	.166	-.068	-.234	-.137	.021	-.145	-.298*
	有意確率 (両側)	.186	.781	.839	.402	.177	.582	.054	.267	.864	.238	.014
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
育った場所	Pearson の相関係数	-.121	.505**	.506**	.539**	-.171	.047	.216	-.151	.212	.333**	.367**
	有意確率 (両側)	.326	.000	.000	.000	.163	.701	.077	.220	.083	.006	.002
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
海外で過ごした年数	Pearson の相関係数	-.104	.453**	.419**	.529**	-.245*	.022	.284*	-.092	.174	.322**	.331**
	有意確率 (両側)	.397	.000	.000	.000	.044	.856	.019	.455	.156	.007	.006
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
家での食事嗜好	Pearson の相関係数	.468**	.106	.166	.157	-.205	-.315**	.412**	.042	.051	.241*	.350**
	有意確率 (両側)	.000	.390	.176	.201	.093	.009	.000	.732	.680	.048	.003
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
外での食事嗜好	Pearson の相関係数	1	-.052	-.047	.102	.154	-.313**	.275*	-.241*	.019	.063	.233
	有意確率 (両側)		.676	.705	.410	.210	.009	.023	.048	.875	.611	.056
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
読解能力	Pearson の相関係数	-.052	1	.903**	.557**	-.190	-.019	.281*	-.090	.200	.239*	.251*
	有意確率 (両側)	.676		.000	.000	.120	.877	.020	.465	.102	.049	.039
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68

相関

		使用できる言語	言語の嗜好	自己認識①	0-6歳時の交友関係	6-18歳時の交友関係	現在の交友関係	嗜好する環境	生い立ち	育った場所	海外で過ごした年数	家での食事嗜好
執筆能力	Pearson の相関係数	.532**	.595**	.154	.235	.527**	.284*	.101	.025	.506**	.419**	.166
	有意確率 (両側)	.000	.000	.211	.054	.000	.019	.414	.839	.000	.000	.176
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
自己評価	Pearson の相関係数	.469**	.512**	.386**	.301*	.523**	.282*	.183	-.103	.539**	.529**	.157
	有意確率 (両側)	.000	.000	.001	.013	.000	.020	.136	.402	.000	.000	.201
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
海外文化への参加	Pearson の相関係数	-.425**	-.099	-.213	-.053	-.129	-.141	-.077	.166	-.171	-.245*	-.205
	有意確率 (両側)	.000	.422	.081	.665	.295	.251	.531	.177	.163	.044	.093
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
日本の価値観への共感	Pearson の相関係数	-.088	-.223	-.121	-.009	-.019	-.055	-.269*	-.068	.047	.022	-.315**
	有意確率 (両側)	.475	.067	.325	.939	.878	.656	.027	.582	.701	.856	.009
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
海外の価値観への共感	Pearson の相関係数	.111	.329**	.299*	.208	-.001	-.015	.362**	-.234	.216	.284*	.412**
	有意確率 (両側)	.367	.006	.013	.089	.991	.902	.002	.054	.077	.019	.000
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
日本での居心地	Pearson の相関係数	-.029	-.258*	-.014	-.036	-.356**	-.126	-.331**	-.137	-.151	-.092	.042
	有意確率 (両側)	.815	.034	.907	.772	.003	.306	.006	.267	.220	.455	.732
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
海外での居心地	Pearson の相関係数	.186	.296*	.191	.091	.171	.182	.136	.021	.212	.174	.051
	有意確率 (両側)	.128	.014	.118	.461	.162	.137	.269	.864	.083	.156	.680
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
自己認識②	Pearson の相関係数	.336**	.383**	.520**	.175	.279*	.171	.237	-.145	.333**	.322**	.241*
	有意確率 (両側)	.005	.001	.000	.153	.021	.163	.052	.238	.006	.007	.048
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
帰属意識を感じる国	Pearson の相関係数	.220	.286*	.432**	.235	.289*	.196	.255*	-.298*	.367**	.331**	.350**
	有意確率 (両側)	.071	.018	.000	.054	.017	.109	.036	.014	.002	.006	.003
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68

相関

		外での食事嗜好	読解能力	執筆能力	自己評価	海外文化への参加	日本の価値観への共感	海外の価値観への共感	日本での居心地	海外での居心地	自己認識②	帰属意識を感じる国
執筆能力	Pearson の相関係数	-.047	.903**	1	.529**	-.195	-.047	.217	-.034	.251*	.215	.249*
	有意確率 (両側)	.705	.000		.000	.110	.702	.076	.784	.039	.078	.041
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
自己評価	Pearson の相関係数	.102	.557**	.529**	1	-.197	-.176	.424**	-.316**	.251*	.517**	.599**
	有意確率 (両側)	.410	.000	.000		.107	.152	.000	.009	.039	.000	.000
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
海外文化への参加	Pearson の相関係数	.154	-.190	-.195	-.197	1	.188	-.212	.005	-.011	-.122	-.079
	有意確率 (両側)	.210	.120	.110	.107		.125	.083	.965	.931	.322	.521
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
日本の価値観への共感	Pearson の相関係数	-.313**	-.019	-.047	-.176	.188	1	.005	.372**	.124	-.315**	-.217
	有意確率 (両側)	.009	.877	.702	.152	.125		.966	.002	.314	.009	.075
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
海外の価値観への共感	Pearson の相関係数	.275*	.281*	.217	.424**	-.212	.005	1	-.143	.260*	.289*	.393**
	有意確率 (両側)	.023	.020	.076	.000	.083	.966		.244	.033	.017	.001
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
日本での居心地	Pearson の相関係数	-.241*	-.090	-.034	-.316**	.005	.372**	-.143	1	.068	-.308*	-.380**
	有意確率 (両側)	.048	.465	.784	.009	.965	.002	.244		.583	.011	.001
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
海外での居心地	Pearson の相関係数	.019	.200	.251*	.251*	-.011	.124	.260*	.068	1	.184	.160
	有意確率 (両側)	.875	.102	.039	.039	.931	.314	.033	.583		.133	.191
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
自己認識②	Pearson の相関係数	.063	.239*	.215	.517**	-.122	-.315**	.289*	-.308*	.184	1	.507**
	有意確率 (両側)	.611	.049	.078	.000	.322	.009	.017	.011	.133		.000
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
帰属意識を感じる国	Pearson の相関係数	.233	.251*	.249*	.599**	-.079	-.217	.393**	-.380**	.160	.507**	1
	有意確率 (両側)	.056	.039	.041	.000	.521	.075	.001	.001	.191	.000	
	度数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68

**. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

*. 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。